

2016 年度事業報告

保全団体サポート事業

会としての予算がなく人手も不足している中で、効率的に活動し成果を上げるべく努力しました。

【調査活動とデータベースの構築】

既存情報を整理しつつ、棚田ガイドブック制作のため新たな情報の収集を行いました。

【情報発信】

年4回の会報誌、Web、ブログ、facebook などを利用して、情報発信に努めました。

【相互交流の場の創出】

2016年7月に佐渡市で行われた全国棚田サミットで、4度目となる「棚田保存会意見交換会」のコーディネーターを務めました。このサミットでは新たに「U30(アンダーサーティ)」という企画の実現をサポートし、若い世代の意見交換会の座長を務めました。

また、12月に行われた「エコプロ2016」では、全国棚田連絡協議会や全国各地の棚田保存会と協力し「日本の棚田共同展示コーナー」として3度目のアピール活動を行いました。特設ステージでは対談や現代バレエのミニ公演などもあり、棚田の果たす役割などを多彩に表現し、多くの来場者の注目を浴びました。一方で、クイズラリーの方式変更や事前の広報活動については課題も明らかになり、次年度に向けて改良したいと思います。



都市住民向けの普及啓発事業

現地活動、イベント、棚田オーナー制度紹介サイト充実、旧暦棚田ごよみ販売など、様々な活動に取り組みました。

【川代プロジェクト】

鴨川市川代棚田での体験プログラムは、棚田や農業・農村に関心のある都市住民が気軽に体験できる場を目指し取り組みました。参加者は5月7日(土)の田植え体験18名(前年比19名減)、8月28日(日)の稲刈り体験15名(前年比12名減)で、初年度の昨年より大幅に減少しました。より魅力ある体験となるような企画や日常的な情報発信等に工夫が必要と思われます。

【恵那地区・棚田ビオトーププロジェクト】

今年度も、棚田ビオトープ田植え、こどもビオトープ観察会、稲刈り、ヤマアカガエルの卵塊調査「かえるの卵を探そう！」(第10回!)を実施しました。地域に交流の拠点となる施設が完成し、NPO法人恵那市坂折棚田保存会による管理運営が始まっています。

【石部プロジェクト】

「昔ながらの米づくりプロジェクト」は5年目となりました。昨年同様6回のイベントでの作業のほか田起こし、代かき、脱穀・精米をスタッフの手で行いました。ファミリーでの参加も増えてきており、田植え、稲刈り時の作業エリアが足りなくなり、保存会から別のエリアを提供していただきました。収穫量は前年並みの125kg程度でした。



【佐渡プログラム】

全国棚田サミットが7月に佐渡市で開催されたため、会としての佐渡ツアーは実施しませんでした。

【棚田百貨堂（オーナー制度紹介サイト）】

HP自体の知名度はグーグル検索でも一番上に出てくるようになりました。WEB更新作業など事務作業の範囲で対応していましたが、担当のスケジュール調整ができていませんでした。また、新規問い合わせに対して早急な対応ができませんでした。

【入門・活動紹介イベントなど】

2016年度も新宿区の子供環境学習イベント「まちの先生見本市」に出展しました。会場は落合第三小学校。体験型に重きを置いた棚田のブースでは、写真展示、紙芝居、脱穀・糺摺り作業などを通じ、子供たちと一緒に米作りの大切さを学びました。



【旧暦プロジェクト】

「旧暦棚田ごよみ」は、昨年引き続き壁掛けタイプと卓上タイプを発売しましたが、棚田サミット(夏開催)での販売がなかったり、PRイベントや広報活動が思うようにできなかったため注文が伸びず、売上前年比 20%減となりました。発売開始5年目となり、気の緩みが出た感もあります。初心に帰り次年度に取り組みます。

企業・団体向けの普及啓発事業

会に寄せられた相談への対応や、法人会員のCSR活動のフォローなど、限られた人員の中で活動を継続しました。

新たなCSR活動サポート事業については、数件の問い合わせはあったものの、実施には至りませんでした。また棚田保全米事業では、川代プロジェクト、石部プロジェクトの体験田で収穫した棚田米を、会員向けに販売しました。引き続き「棚田米百選」(成川米穀さん)を応援しました。

組織運営について

会員の減少傾向を食い止めるには至っていません。2017年4月1日現在の会員数：287名(前年同期292名)。2016年度は新規加入者7名、退会者(会費未納による除籍含)12名でした。なお、10月17日に認定NPO法人資格を取得しました。

【広報・Web】

前年度にリニューアルしたサイトのコンテンツ整備に努めました。特に未整備だった「棚田の現状」の「放棄された棚田」「棚田保全の歴史」「全国棚田保存会一覧」の三つのページを完成させました。また、企業・団体向けのページの内容充実にも努めました。Facebook ページでは、「いいね！」が1000人を超えて、年度末までに1100人に達しました。

